



写真1 学校林での体験学習に取り組む中学生

# 森林体験と教育

多摩森林科学園 教育的資源研究グループ長 大石 康彦

## 多様な森林体験

自然と疎遠な現代社会ですが、森林と生活に関する世論調査（平成23年内閣府）によれば、7割の回答者がここ1年くらいの間に森林へ行ったことがあるとしています。国民にとって、森林体験は存外身近なものです。

森林体験活動の実態を探るため、東京都八王子市と滋賀県大津市で行われている、森林体験活動368事例を収集しました。それらの内容を、森林体験活動の実践者の協力により整理したところ、森林体験活動は、40種類にも及び、大きくは「森林資源」、「自然環境」、「ふれあい」の3つのグループに分類できました（図1）。

このように、多様な内容を持つ森林体験は、森林の文化的サービス全般の源泉になっているものと考えられますが、ここでは、教育に関わる問題に焦点を絞って考えます。

## 教育における森林体験

森林体験活動を含む自然体験活動は、子どもたちの生きる力を育むものとして重要視され、学校教育の中で拡充されてきました。

環境教育等促進法（平成23年改正）は、環境教育において重要な自然体験活動の筆頭に森林体験活動をあげています。森林体験活動は、教育において、自然体験活動を代表するものとして重要視されているのです。実際に、多摩森林科学園の実験林で行った小学5年生の1年間の森林体験学習では、生き物調査や炭焼きを通じて、自然と人間の生活のつな

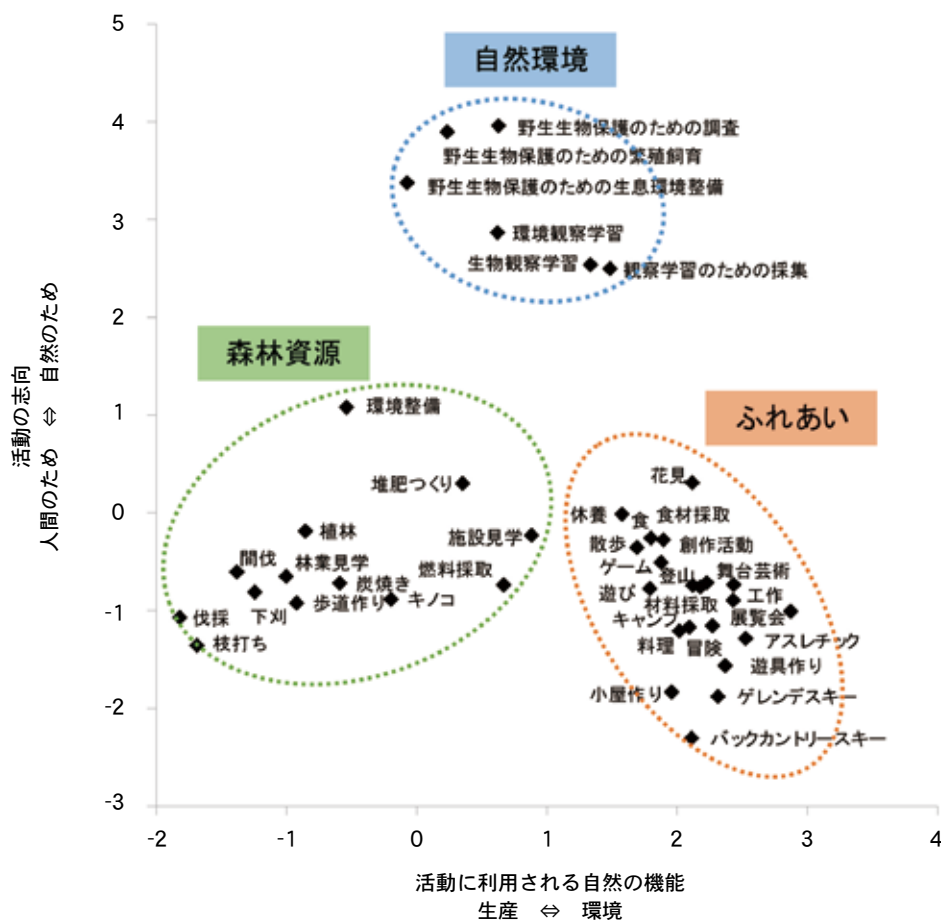


図1 森林体験活動の分類

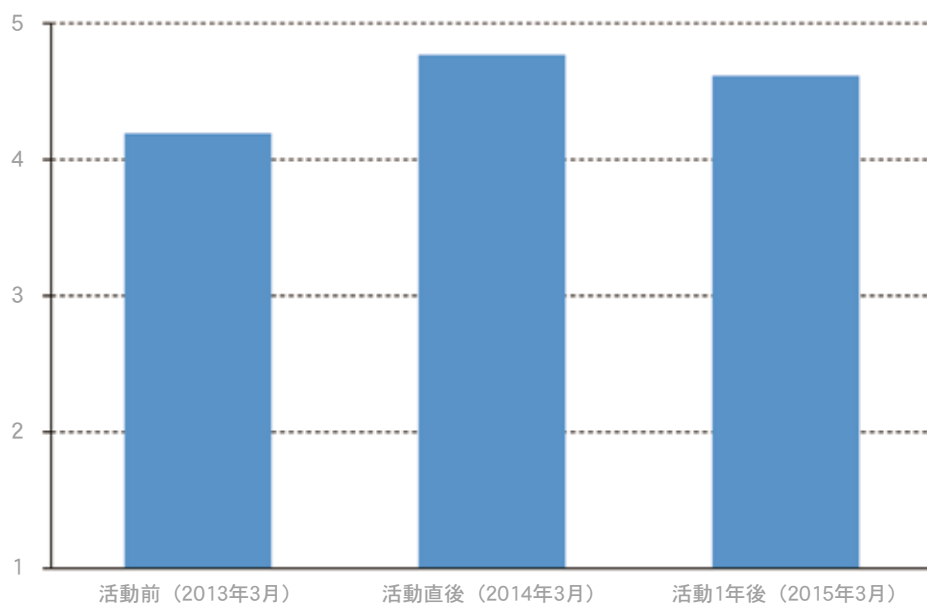


図2 森林体験活動による小学生の意識変化(52名の平均値)  
質問 自然と人間の生活には深いつながりがある  
回答 1:あてはまらない～ 5:よくあてはまる

がりに関する生徒たちの意識が変わったことが確認され、森林体験が持つ教育的な意義が明らかになっています(表紙、図2)。

ています(写真1)。

明治期から設置されてきた学校林や昭和47年から設置されてきた自然観察教育林など、森林の教育への活用は、古くから行われてき

近年では、林野庁と文部科学省が連携して子どもたちに森林体験活動の機会を提供する「森の子くらぶ」や、国有林と学校が協定を結び、国有林を学習活動のフィールドとして継続利用できるようにする「遊々の森」などの制度による、森林の教育への活用が推進さ

れています。  
このような研究成果や、森林の教育への活用の歴史を踏まえながら、引き続き、森林の教育への活用法の検討を進めていく必要があります。